

# 「市民による事業評価」

## 【青少年の育成】

### 議事概要総括編

平成 25 年 7 月

事務事業名	青少年育成推進指導員制度
-------	--------------

## 1 概要

- ・上田地域の自治会単位に一人配置(157人)
- ・報酬 年額 12,500円、H24年度予算額 2,657千円
- ・青少年育成関係団体のパイプ役
- ・自治会内で青少年育成自治会懇談会を年1回程度、公民館単位開催する地区市民集会を年1～2回開催(コーディネータ役)。

## 2 課題

- ・旧4市町村のうち、旧上田地域のみ制度であり他の旧3町村地域にはない制度となっているとともに、自治会懇談会等の開催を主な任務としている委員制度を設けている県内自治体はない。
- ・自治会内1人制であり、毎年役員交代があるため懇談会以外の活動ができていない。
- ・高齢化が、役員の選出の大きな弊害になっている。小さな自治会によっては委員のなり手がいなかったり、子どもがごく少人数の自治会もある。
- ・本指導員制度のみの課題ではないが、地域全体の青少年育成活動の具体的で効果の上がる方法を検討し実行する必要がある。

## 3 市民評価委員の意見の概要

地域・大人・家庭
① 課題にも「青少年育成について当事者意識が薄い大人が増加」とあるが、まさにそのとおりだと感じる。
② 青少年の育成に関して、保護者(当事者)の意識が低いように感じる。

制度
① 青少年育成に関係する事業や役割が多すぎる。 青少年育成推進指導員、少年補導員、防犯指導員、子ども会育成会、公民館(分館)、小中生徒指導委員会(小中学校)、自治会、PTA、民生児童委員(厚労省)、保護司(法務省)、少年指導員(県公安)、少年警察ボランティア協会(県警)
② 本制度を充実させていくのであれば、丸子、真田地域にも広げることも考えられる。
③ 推進指導員は、地域に一人のため活動が孤立していることは課題である。
④ 実態として、制度本来の役割が十分に活用されていない面があり、活動を推進させる方法を検討する必要がある。
⑤ 地域に子どもたちが少なく、役員のなり手がいないという課題もあるが、子どもとの関わりは直接関わるという方法だけでなく、遊び場の提供という方法も考えられる。
⑥ 子育てが終わった大人は、子育ての専門家である。本指導員制度に限定せず、その経験を地域全体の中で還元していく方法もあるのではないか。

### 役割

- ① 家庭の中に手を差し伸べるのが難しくなっているが、保護者に自覚をさせていく役割があるとすれば、この推進指導員が適任ではないか。
- ② 地域のコミュニケーションと地域で子どもたちを見守るという関係づくりが大切。そのきっかけとして、推進指導員は大切と考える。
- ③ 役員の力量によっても結果は大きく変わってくる。推進指導員も自覚を持って活動していただけると効果も上がるのではないか。

### 行政

- ① 活動内容に対する、行政のサポートが不足している。
- ② 推進指導員が機能していないということは、指導的立場の公民館の社会教育指導員が機能していなかったとも言えるのではないか。

事務事業名	少年補導委員
-------	--------

### 1 概要

- ・巡回活動等を行い、青少年の非行防止、健全育成活動を行う。
- ・H20年度から市内全域の組織となる。
- ・自治会選出199人、学校選出44人の計243人、27地区46班で活動。
- ・定期補導は月1回、一日補導活動は年2回、環境チェック活動は年3回実施している。
- ・近年の補導人数は10～20人程度。
- ・報酬は、活動1回当たり2,350円。H24年度予算額8,260千円。

### 2 課題

- ・街頭補導活動の対象となる青少年の人数は減少、有害自販機は、4か所10台になっており減少、インターネットやゲーム等の普及により外で遊ぶ機会が減少し、「補導」や「環境の浄化」という役割も社会情勢の変化に対応しきれていない。
- ・市街地と周辺部の環境の違いに対応した活動内容の検討、見直し。
- ・青少年の育成を目的とする他組織との役割分担の明確化や連携も課題。

### 3 市民評価委員の意見の概要

地域・大人・家庭
① 補導委員に限らず、地域の大人に声を掛けられる状況が子どもたちにとって良い影響を与えると思うので、そういった環境を整えることが必要。
② 子どもたちと地域の大人が顔見知りになることが必要だと思う。それには、地域の行事に子どもたちを参加させる環境をつくることが有効。

制度
① 市街地と周辺部では状況も違うため、活動方法、巡回方法、活動時間、補導委員の人数など、活動内容そのものを見直す時期ではないか。
② 委員を経験しての感想として、補導委員の人数は、半分程度で良いのではないか。
③ 補導委員の活動に店舗等を巡回することがあるが、1回の巡回活動で2時間程度の報酬単価としては高額である。この費用を青少年に係る他の事業(児童クラブ等)に充て、事業を充実させるほうが、目的である青少年の育成に効果が上がるのではないか。
④ 防犯指導員や少年警察ボランティア等の関係団体と連携し活動することが大切。
⑤ 関係団体と活動の整理も出来るのではないか。
⑥ 補導委員を廃止するのではなく、活動内容を工夫し存続させるべき。
⑦ 委員は「補導」という名称ではあるが、その目的は青少年の育成であることから、「補導」はそぐわない、見直しが必要。

### 役割

- ① 「補導」という立場から転換していくことが必要。
- ② 子どもたちを「育成」していくならば、これまでの「監視」「規制」という視点を変え、「育成」に向けた見直しが必要。
- ③ 活動を終息させると、懸案事案が増えるのではないか。
- ④ 目的が青少年の育成であるならば、子どもたちへの声掛けという活動も大切な活動である。
- ⑤ 保護者の相談先としての機能がはたせないか。

### 行政

- ① 一般市民に活動が伝わっていない、活動がなかなか見えないことを改善すべき。

事務事業名	子ども会育成連絡協議会
-------	-------------

### 1 概要

- ・次代を担う子どもたちを健やかに育てるために、地域住民が一体となって健全育成に取り組むことが必要であることから、H20年に市内全域に広がり結成された。
- ・子ども会育成会では、伝統行事、清掃活動、スポーツ大会、体験活動事業等をPTAや公民館分館と連携し活動している。
- ・子ども会育成会は178団体。
- ・H24年度補助金予算額4,452千円。1団体当たり平均額25千円。

### 2 課題

- ・少子化の影響により、子どもの会員数が減少し5育成会が活動休止。
- ・子どもの自由な時間が少なく、参加者数は減少傾向。
- ・社会情勢の変化もあり、現在の子どもたちには、生活、自然体験が不足。
- ・地域社会とのつながりが希薄化し、子育て家庭の社会的孤立も広がっている。
- ・家庭や学校で出来ない体験は重要であるが、体験や活動を広げる方法を検討する必要がある。

### 3 市民評価委員の意見の概要

地域・大人・家庭
① 子どもたちの自主的な活動の場である「子ども会」の活動を、周囲の大人や地域がどう支えていくか。
② 熱心な指導者がいると、会の活動も生きる。
③ 同じ地区で子どもたちと一緒に育てる仲間として親同士のコミュニケーション、繋がりが重要。親同士の関係が、子ども同士の関係に繋がっていく。
④ 地域の中でも、コミュニケーションが不足している状況がある。
⑤ 親としてどうあるべきか、ということについて外部から指導することは難しいのではないか。

制度
① 「子ども会」とは、子どもたちが自主的な活動と運営する場と再確認する必要があるのではないか。

役割
① 子ども会を取り巻く環境は変わってきていると思うが、基本的に大切な活動だと思う。
② 地域活動への参加の少ない中学生を対象に、「子ども会」への参加をどのように考えて

いくか、ということも育成会を検討する上で必要ではないか。

- ③ 地域によっては、児童の健全育成の場として位置付けられてきた背景があり、地域間で会に対する役割の認識が若干異なっている。
- ④ 里山の活動に携わっているが、子どもたちは自然の中で豊かに活動をしている。しかし休日は、クラブ活動等に参加することから、スポーツを通して団体活動を体験させることは良いことであるが、地元の行事等は欠席が多い。
- ⑤ 学校や家庭の他に、子どもが集まる居場所を作ることが大切でないかと思う。家庭と学校をつなぐ架け橋になる、子どもの居場所を地域で作ることができれば素晴らしいと思う。
- ⑥ 家庭で補いきれない部分(言葉づかい、昔からの知恵など)について、子ども会の中で、地域と連携しながら子どもたち自身が作る活動を通して、身に付けることができる場になると良い。

#### 行政・学校の役割

- ① 「子どもの頃の体験」の重要性を、機会を捉えて啓発していく必要がある。
- ② 中学校長が、学校主導で生徒を地域の行事等へ参加させたことがきっかけで、第二中学校区の中학생のお祭りへの参加が盛んになり、地元行事への参加も根付いたように思う。学校としても、地域の活動への参加を後押しして欲しい。
- ③ P T Aの清掃活動にも子どもを参加させようと学校に掛け合ったことがあり、それを機に子どもたちも活動に参加するようになった。

事務事業名	地域青少年育成指導者養成講座
-------	----------------

### 1 概要

- ・子どもたちの自然体験活動を指導できる人材を養成し、地域において体験活動の推進を図る。
- ・H21年度から開始した事業。
- ・講座開催回数 年4～5回程度、延べ受講者数 165人(実質 36人)
- ・H24年リーダーズバンク登録者 12人
- ・H24年度予算額 120千円。

### 2 課題

- ・ゲームやインターネットによる疑似体験が増え、野外での体験活動の機会や参加が減少している。
- ・親世代が自然体験等の経験不足から、子どもへの指導が不可能になりつつある。
- ・実体験から得られる「生きる力」の育成を図る必要がある。

### 3 市民評価委員の意見の概要

地域・大人・家庭
① 地域の子どもたちは地域住民みんなで育てることが必要であり、地域の行事にできる限り大勢参加させることが望ましい。
② 地域の行事に中学生の参加を求めるためには、中学生が参加したくなる行事とすることが必要。行事の企画段階から、中学生とともに企画するなどの工夫を凝らす必要がある。
③ 地域住民の中には様々な趣味を持っている方がおり、自然体験活動の指導者になれるような人材が大勢いると思われるので、そのような方を発掘することが、指導者として活用、活躍していただけるのではないかと。そのような方とどう連携するのかが課題。
④ 丸子地域は以前から指導者協議会があり、自然体験活動に進んで取り組んできた。市全体としてもそのような活動が広がっていけばいいと思う。
⑤ クラブ活動に参加している子どもたちは、団体生活の中で譲り合い、認め合う気持ちが醸成され、比較的仲間づくりに関しては問題ないと思われるが、参加していない子どもたちの行事への参加を促したい。
⑥ 子どもたち自身もそうだが、その親たちの協力も得られなければ、地域行事への参加者を増やせない。
⑦ 親世代も自然の中の危険が分からないことが多いので、親も一緒に学ぶための事業の充実を望む。
⑧ 地域で講座や講演会を企画しても、参加して欲しい家庭が参加しないことが多い。
⑨ 教育の基本は、家庭にある。



## 制度

- ① リーダーを育てることは大切なことと思うが、子どもたちに自然体験活動の場を提供しても、スポーツ活動に比べ参加者が非常に少ない。その理由を分析する必要がある。
- ② 部活動等に時間が割かれており、行事等への参加者も少なくなっているとする。指導者を養成する以前の問題として、参加者を増やす方法も課題。
- ③ 指導者となる地域の大人たちを巻きこみ、子どもたちに還元するための方法、仕組みで考える必要がある。
- ④ リーダーを養成していくことも必要だが、子どもたちと関わることができる人が、できることから始め、少しずつ輪を広げていく考え方もいいのではないかとも思う。
- ⑤ これまでの「PTA」だけではなく「PTCA」と言われ、C（コミュニティ）を加えた取組が必要となってきた。
- ⑥ PTA、公民館、学校、担当課と、青少年の育成という同じ目的で様々な事業を行っているが、それぞれ独自に進めている感がある。縦割りで行ってはせっかくの事業も生きてこない。
- ⑦ 指導者として、技術だけでなく活動のつくり方や子どもとの関わり方、ネットワークのつくり方まで身に付ける必要があると思う。学校、公民館それぞれで独自の人材バンクを持っているが連携不足ではないか。

## 役割

- ① 養成講座は、自然体験活動のリーダーを育てることを目的とされているが、現在の子どもたちには自然体験活動に留まらず、文化伝統など幅広い活動を体験させる必要がある。

## 行政の役割

- ① 地域の行事に子どもたちの参加率が低いので、学校と公民館との連絡を密にし、地域の子どもと地域の大人が一緒になる機会を多く作るべき。
- ② 各戸配布されている公民館だよりが、あまり活用されていないのではないか。
- ③ 学校では、地域行事への参加を促しているが、特に土日は部活動や社会体育へ時間を取られている傾向にあることから、学校とのすり合わせも必要。
- ④ 養成講座修了生が、その後活動しやすいようバックアップすることが必要。
- ⑤ 地域にいる人材の発掘、情報収集が必要。
- ⑥ 地域で活躍している人材に光を当てることも必要。

事務事業名	地域住民による学校支援事業
-------	---------------

### 1 概要

- ・学校を地域に開き、地域の教育力を導入することにより、地域ぐるみで子どもを育もうとするもので、学校教育の充実、地域の教育力の向上及び生涯学習の成果を活かすことを通じた生涯学習社会の充実を図るもの。
- ・塩田中学校「学校支援地域本部事業」（学習支援、環境整備）、浦里小学校「コミュニティ・スクール」（登下校の見守り、学習支援、環境整備）、第三中学校（環境整備支援）、南小学校（読み聞かせボランティア）、長小学校（大学生ボランティアの学習支援）、武石小学校（学習支援）など
- ・H24 年度予算額 548 千円

### 2 課題

- ・学校支援のボランティアが、何をどこまで行うのか、学校教育との調整が必要。
- ・長期支援に対するボランティアの人員体制、継続性の確保が課題。
- ・公民館がボランティア活動のコーディネートを担っているが、コーディネーターの確保、育成が課題。
- ・地域住民による支援を広げるための方策が課題。

### 3 市民評価委員の意見の概要

地域・大人・家庭
① 子どももそうだが、大人でも挨拶ができない人が多い。あいさつは、仲間としてのまとまりを作ってくれる。
② 親同士が声を掛けあい、コミュニケーションをとっていけば、自ずと子どもたちも地域の行事に参加するようになるのではないかな。
③ 躰まで含めて全てを学校に依存するのはいかかかと思う。家庭でしなければならないことは歴然とあるはず。
④ 子どもたちは、学校や家庭で認められる場面が少なくなっているのではないかな。

制度
① ボランティアの人員体制の、継続性の確保が重要である。

役割
① 支援ボランティアの方の話を見ると、非常にいきいきと活動されており、その姿を見ている子どもたちに良い効果が表れてくるのではと感じた。
② 支援事業も程度を超えると、子どもたちの自主性や主体性が損なわれる、主体性が育

- たないなど、逆効果になることもあるのではと心配もする。
- ③ 浦里小学校を視察し、全体的に子どもたちが落ち着き、授業に集中している印象を受けた。
  - ④ 授業に地域のボランティアが入ることによって授業の進め方や雰囲気に変化がもたらされ、いい効果が出ているのではないかと感じた。地域のボランティアが授業に参加することで、授業の幅が広がっている。
  - ⑤ 浦里小学校は、児童数が少ないため、目が届きやすく理想的とも思えるが、同様のスタイルを都市部の学校に取り入れようとしても難しいのではないかと思う。コミュニティスクール制度も、浦里小学校が置かれている状況が成功している大きな要因ではないかと思う。また、地域の学校に対しての思いが、制度を成功させている要因と言えそうである。
  - ⑥ 学校、地域、保護者が連携して学校を運営していくことが望ましいと思う。
  - ⑦ 学校支援事業のモデルケースの成果と成功の要因を分析し、他校の参考に活用できればと思う。
  - ⑧ 地域のボランティアが支援に入ることで、子どもたちに良い緊張感が生まれ、良い効果が表れているのではないか。
  - ⑨ 子ども一人ひとりに合った教育を保障するためには、この支援事業は大変重要と思われるので、さらに充実を図っていくことを望みたい。
  - ⑩ 子どもが落ち着いて授業に臨めない原因を家庭の躰とするのか、ひとつの障害として捉えるのかによってその対応もずいぶん違ってくるので、見極めも慎重に行う必要があると思う。

#### 行政・学校の役割

- ① 子どもたちも挨拶ができる子とできない子がいるが、教員にも同じことが言える。教員の教育に対する改善が必要ではないかと感じている。
- ② 地域のボランティアが学校支援に入る事例を、多くの学校で参考にするべきで、市としても支援事業にもっと多くの予算を割くべきと思う。
- ③ 学級担任の他に子どもたちを見ることができるといえる体制が必要であるならば、地域のボランティアが学校支援に入ることは意味のあることなのではないか。特別支援教育支援員についても、今以上に手厚く配置する必要もあると思う。
- ④ 現役の教員や保護者に、OBなどが自らの経験を伝えられる機会があるといいのではないか。
- ⑤ 子どもへの生活指導も、学校指導の範疇に入ってしかるべきと思う。
- ⑥ 家庭で行き届かない生活指導を学校で補う場面も当然あるので、時には厳しい指導も必要と感じている。

事務事業名

上田市スポーツ少年団活動補助金交付事業

1 概要

- ・スポーツ少年団の活動費の補助を行うもの。上田市体育協会を通じて交付している。
- ・スポーツ少年団 44 団、27 種目、団員数 2,214 人(H23. 8. 31 現在)
- ・H24 年度予算額 2,050 千円、1 団体当たりの補助金 46 千円程度

2 課題

- ・スポーツ少年団の活動目的は、子どもたちの健全育成とスポーツに親しむ子どもを育てること、また、地域交流、世代交流を目的としているが、近年、単一種目による競技志向の強いものとなってきている。
- ・子どもたちのニーズに応える少年団となっているか。
- ・地域社会から期待され青少年の健全育成に貢献する少年団であるか。
- ・競技志向だけでなくスポーツの楽しさや素晴らしさを伝えられているか。

3 市民評価委員の意見の概要

補助制度

- ① 少年団の決算書から計算すると、補助金額は1人当たり 1,000 円にも満たない計算になるが、少なすぎるのではないか。
- ② 補助金額が少ないのではという意見もあったが、一方、少年団に参加している子どもたちは全体の一部であるため、公平性という面から考えることも必要。青少年の心と体を育てる組織としてスポーツ少年団の活動があるが、その活動の為に市として 205 万補助し支援することによって、地域の中での活動を確保していると捉えることもできると思う。

役割

- ① 指導者の固定化や高齢化、また、指導者として新しい知識を持っていない方が多くなってきている現状、スポーツの楽しさ、素晴らしさを伝えることができていないのではないか。
- ② 競技志向が強く、指導者の言動が目にも余る少年団もあると聞く。上田市の少年団として指導者の養成を図ってきただろうか。予算を掛け、指導者の養成をしっかりとしなければ、少年団の活動も意味のないものになってしまうのではないか。
- ③ 少年団も徐々に競技志向が強くなってきている傾向があり、少年団本来の目的から離れてしまっている実態があると思う。中にはクラブチームとして活動した方がいいと思われる少年団もある。
- ④ 少年団活動も単一種目になってしまっているが、様々なスポーツを子どもたちに体験させる形態にしていかないと、子どもたちの可能性の芽を摘むことになってしまっている

のではないか。

- ⑤ 子どもたちの可能性を引き出す少年団でなければならないと思う。その為にももう少し予算が必要だと考える。
- ⑥ 小規模の少年団などは、子どもたちが少年団の予定にしばられてしまい、地域の行事等との連携も上手くいかないことも多く、少年団のあり方について精査する必要もあるのではないか。本来の目的に沿った少年団として見直しが必要になっている。
- ⑦ 競技志向であることの一面として、勝負の世界の厳しさを学ぶことも、競争心を育てるために必要な事とも思うが、それが過度であってはいけないと思う

#### 行政の役割

- ① スポーツを通じて子どもたちに身に付けさせたいことから逸脱するような場合は、ある程度行政がコントロールすることも必要なのではないか。